

平成23年度第2回史跡小田原城跡調査・整備委員会 植栽専門部会 会議録

日 時 : 平成23年11月7日(月) 13:30～

会 場 : 小田原市立三の丸小学校ふれあいホール

出席部会員 : 小出部会長、石川副部会長、榎本部会員、小笠原部会員、勝山部会員、杉山幾一部会員、杉山実部会員、鈴木志眞夫部会員、鈴木崇部会員、富田部会員、宮内部会員、森谷部会員

事 務 局 : 諸星文化部長、奥津副部長

文化財課 (加藤課長、大島副課長・史跡整備係長、佐々木主査、岩崎主任、牧岡臨時職員)、まちづくり景観課 (片野副課長)、みどり公園課 (今井係長・石井主査)、観光課 (諏訪専門監・二見係長)

文化財課長 ただいまから、平成23年度第2回史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会を開催する。なお、本日は部会員のほかにオブザーバーとして神奈川県文化遺産課の谷口副主幹にご出席いただいている。

それでは文化部長からご挨拶申し上げます。

文化部長 長時間の現地視察をとお疲れのところと思うが、平成23年度第2回史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会を始めさせていただく。

先ほど、現地でもご説明したが、9月21日の台風の影響で小田原城址公園内の樹木も40本の倒木や幹が折れるなどの大きな被害を受けた。市内各地でも倒木等が相次ぎ、飯泉の勝福寺においては神奈川県指定天然記念物である大イチョウの大枝が折れるなどの被害も出ている。自然の脅威を感じるとともに、日常の適切な管理の必要性を改めて感じた次第である。

また、御用米曲輪についても現地をご確認いただいたが、今年度の修景整備工事に着手し、観覧席やフェンスの撤去・発掘調査が進んでいる。植栽についても、議論となっていた北東土塁上のクスノキの事前剪定や傾向マツの伐採が既に完了している。施工にあたっては、鈴木崇部会員と富田部会員に技術的な指導をいただくとともに、多数の部会員の皆様にご確認・ご協力をいただいたことに、改めて感謝申し上げます。

本日の会議では、御用米曲輪の史跡整備の進捗に伴う具体的な植栽の取扱いについてご議論をいただくとともに、城址公園全体の植栽管理について、完了した毎木調査の結果などを報告させていただく。

この植栽専門部会における議論については、ますます個別・具体的な問題

に取り組んでいくことになり、解決すべき課題も出てきているが、一層のご指導とご協力を重ねてお願い申し上げて挨拶とさせていただきます。

文化財課長 次に配布資料を確認させていただく。本日の配布資料については、次第のほか資料1～4までである。また、植栽専門部会の部会員名簿などを参考資料として添付している。さらに、「小田原城址公園の松の活用について（経済部提案）」という資料を卓上に配布させていただいた。確認いただき、不足があったら挙手で知らせてほしい。

それでは議事に入る前に、会議の公開等について説明する。これまでも説明してきたが、本日の会議も公開とし、会議録も公開の対象となる。会議録については、事務局で取りまとめた後に各部会員にご確認いただいて確定稿とする。また、傍聴人からの撮影・録音等の許可申請については、前回までは「議事進行中の撮影は、最初のみとさせていただきますが、メモをとる代わりに録音はしていただいてもかまわない。また、現地視察の際は、委員の視察に支障のない範囲とさせていただきます。」ということを決めていただいた。議事の進行は、ここから部会長にお願いするが、撮影・録音等の許可申請を本日はどうするか決めていただきたい。なお、傍聴人の皆様には携帯電話等を音の出ない設定にしていただきたい。

部会長 会議の公開等については前回と同じということによろしいか。
(異議なし)

では前回と同様ということで。

では、はじめに議題(1)「御用米曲輪の整備について」事務局からの説明を求める。

事務局 では、現地に引き続き、御用米曲輪で進めている整備事業について説明する。資料1としてスケジュール案と「平成23年度工事に伴う樹木の対処方法について」というもの2枚を用意した。

まずスケジュールは、昨年から提示してきたものに、内容・日程等定まってきたものを加筆したものとなる。資料にあるように、本日は第2回植栽専門部会ということになるが、すでに現地で観覧席撤去後の樹木の状況確認をしていただいた。この後、城内の毎木調査の結果を報告させていただくが、今後の樹木の取扱いについてご協議いただきたい。

今後は、12月14日に第1回史跡小田原城跡調査・整備委員会を開催し、1月中旬に第3回植栽専門部会、現地見学会・市民説明会を経て、第4回植栽専門部会、最後に第2回史跡小田原城跡調査・整備委員会を開催する予定である。ご承知置きいただきたい。

引き続き、「平成23年度工事に伴う樹木の対処方法について」を説明する。現地でも説明したが、実際に解体工事を進めている過程で、解体業者から

は資料にある樹木21本の伐採が必要との報告があった。この表は昨年度2月17日に開催した専門部会でお配りした表に斜字の部分を加筆したものである。「①平成23年度工事の進捗上、支障が生じた樹木」については、「構造物」という欄にどういう支障があるかを加筆した。備考にあるように、先々伐採対象となる樹木であることは既に示してきたが、解体工事あるいは発掘調査に支障があるため、今年度伐採させていただきたいというものである。

「②工事で支障が生じ、移設・伐採した樹木」については、専門部会の専門の委員にご相談の上、工事の進捗上すでに対処した樹木になる。ツツジについては、伐採・撤去予定であったものの一部を移設という対応に変更したため、ここに掲載している。またウメ2本についても松永記念館の方に移設した。「③台風で倒れた樹木」というものについては、台風15号で倒れたため、欠番となったことを報告するものである。

このような経緯で提示した樹木については、整備計画上は伐採対象としていた樹木ばかりではあるが、今年度伐採する予定ではなかった。そのため、予定より早く伐採することになるが、この点をお認めいただけるかどうか、ご意見をいただきたい。

部会長 この件についてどなたか。

部会員 天守閣下の南側の斜面にはかなりのスギがあり、伐採するかどうかの議論になってくると思う。私は城の景観には相応しくないので伐採も可能と考える。ただその場合に補植を考えられないであろうか。補植については文化庁にも働きかけてはどうか。お城に来る観光客には緑や花を求めて来る方もいると思う。事務局はどう考えているのか。

事務局 スギについては、御用米曲輪の輪郭線を出すための調査を行い、その結果に基づいて土を除いていく計画である。調査の結果次第ではあるが、すでに提示して認めていただいた現状の実施設計では下草類での植栽を考えている。ただし、補植ができないことで木が減っていくような状況をどのように担保していくかという課題がある。これについては、文化庁も補植がダメと言っているわけではないが、せつかく植えたところに遺構の存在が確認され、伐採しなくてはいけないような状況が生じないように十分に検討するように言われている。しかし、発掘調査成果が少ない中では決めづらい状況がある。とは言え、いつまでも先送りにはしては考えがまとまらないので、今後何本伐採することになり、何本補植する必要があるのかという点を決めていく必要がある。ただ、後ほど毎木調査の報告もするが、樹木の側から見ても、必ずしも同じ本数で緑を補っていくことがよい事でもないようである。このような点もバランスを取りながら考えていきたい。

部会長 私も補植は考えた方がよいと思う。触らないところに本数を用意し、本数

の増減についてもトータルに考えていくべきである。文化庁もノーと言って
いるわけではないようなので、計画的にうまくやる方法を考えていけばよい
のだと思う。

部 会 員 今回、スギは少ししか印がついていないが、斜面のスギについては成長が
止まったようであり、伐採するべきと思う。

高木類の補植よりもまず斜面の保護を先に考えるべきだと思う。その上で、
御用米曲輪の整備状況が見えてきた時点で、背景にどのような木を補植する
かを考えていくべきではないか。

部 会 員 樹木のことだけでなく下床植生についても考えていくべきである。木を切
ると光の入り方でも植生は変わってくるので、土壌管理・崩落防止・生物多
様性の立場で土壌を育成していくように、下床植生について考慮していくこ
とが大切ではないか。

部 会 員 整備に伴うことは、トータルで城址公園全体の景観をどうするかという観
点で考えていかななくてはならない問題である。単なる補植ということでもなく、
どうしたら城跡に相応しい緑の景観を作っていけるかという点を考えていか
ないといけない問題である。そういう意味でも南側斜面は、かなりの急斜面
であり、まずは発掘調査成果を待つて輪郭線を明確にし、その結果で斜面を
どのように整備することが可能かを考えていく必要がある。あの急斜面を抑
えるためには、下草で抑えるような作業が必要となってくるだろう。その上
で何らかの植栽を考えていけるかもしれない。ただ、これは、本丸の整備ま
での暫定的な公園景観の設定だろうと思う。まずは、良い景色を作ろうとい
う方向で時間をかけて検討していくものだと思う。

部 会 長 長期に考えて、あるべき姿を考えながら、その前に調べなくてはいけない
ことをちゃんと調べ、適切な時期に適切な小田原の知恵を活かした植栽を考
えていこうということ。それはその場だけでなく、城址公園全体の景観を考
えるという姿勢で臨むのだと。皆さんの意見を聞くとそのようなことではな
いかと思う。少し時間をかけて検討すべきだろう。

事 務 局 部会員の皆様の意見を伺うと、まずは法面の保護を考えるべきである、曲
輪内の整備の方向性を見極めた上で補植を考えた方がよい、光を入れるため
にもスギは切ったほうがよい、整備範囲を明確にするためにもしっかりとし
た発掘調査が必要であり、そのためにもスギは早めに伐採したらどうか、な
どというご意見であった。今回、工事で支障が生じるとして提示した樹木2
1本のうちスギは7本であるが、南斜面のスギについてはむしろ今年度中に
伐採して、今後の状況を検討するようにした方がよいということか。

部 会 長 よろしい、ということだと思う。皆さん、よろしいでしょうか。
(はい)

部 会 員 細かいことだが、スギの中で1本だけ太いものがあるが、あれはどうするのか。細いスギとは性質が異なると思うが。

部 会 長 どのスギか。マークを付けていなかったスギは今年は触らないということだと思うが。

事 務 局 テープを巻いていたスギは7本であるが、今の意見を聞いていると、スギについては今年のうちに対応し、今後の状況を判断した方がよいというように承った。7本以外のスギも今年度着手すべきなのかということをお尋ねしたい。

また、南側斜面の崩落土上の樹木については整備の方向性を考えると残すことは難しいと考える。

部 会 員 337番か。

事 務 局 337番とすると、崩落土除去対象範囲外の樹木であり、伐採の予定はない。ただし、鉄門への坂道の遺構の状況を考えて今後の方針は決めていく必要がある。

部 会 長 崩落土上のスギは、すでに伐採対象として提示されていたこともあるが、城址公園としての景観に対して生きていない。生育状況もそれほどよくないので、工事の進捗状況などとも合わせ、伐採も止むを得ないという判断をこの場でしてもよいと思う。

ただし、斜面の状況把握と無関係のものについては、スギの大きさも含めて今回の対応とはしないで、改めて全体の状況も合わせて考えながら今後の検討とする。こういうことでまとめたい。

部 会 員 その通り。

部 会 長 では、そのようにとりまとめたい。ただし、個別の対応については事務局で整理しておいてほしい。

では次の議題に移りたい。

事 務 局 その前に追加の資料について説明したい。

御用米曲輪の整備に伴って伐採した傾向マツの活用について、経済部農政課からの提案を資料に沿ってご説明する。伐採した樹木の活用については、以前に本部会でもご意見をいただいたところである。御用米曲輪は県有地であり、樹木も県の所有物である。処分について県と協議をしたところ、利益を得るためでなく市や市民活動団体などが使う場合には活用してもらって構わないとのことであった。そのため、クスノキの事前剪定や傾向マツの伐採を行う中で活用方法を考え、関係課や環境保護活動を行っている市民グループなどに投げかけを行ってきた。クスノキについては活用の申し出はなかったが、傾向マツについては市民ボランティアグループから木材の活用の例として木工教室の材料として利用することや動物に似せたクラフトを作成する

などの案があった。また、農政課からも、資料にあるように、役所庁舎内一部の木質化や小学校の環境教育への活用などの提案があった。すでに細い枝などは木工教室の教材として提供しており、幹を中心とした太い部分については今後の活用を踏まえ、保管して活用していきたいと考えている。参考として報告させていただく。

部会長 まだ検討中のことなので、これに対して何か提案・ご意見は。

部会員 より多くの市民の方に知ってもらい、加わってほしい。できるだけ早い段階で関係者だけでなく広い範囲に呼びかけ、活用してもらえるようにしたらよいと思う。

部会長 できることとできないことはあると思うが、インターネットでアイデアを求めたりすることも考えたらどうかと思うが、どうか。

事務局 農政課でも具体的な検討を始めているようである。長く置いていくことは劣化を招くので、状況を見ながら、残るような部分があれば、市民参加の可能性も考えていきたい。皆様からもご意見をいただければ参考にさせていただきたい。できれば年度内を目処に活用法を見極めていきたい。

部会員 現在活用できる状態の樹木が適しているかはわからないが、公園整備に伴うウッドロードなどとしての活用も考えたらどうかと思う。修景的にもよいし、上野公園も奥多摩の間伐材を使ったウッドロードがあり、歩きやすい。造園の専門家の意見を聞いて活用の選択肢を広げていったらよいと思う。

部会員 クスノキについては、利用の要望がなかったとのことであるが、薪などとして市民に提供する、チェーンソー・軽トラ持参でご自由にお取りいただくようなことはできるのか。

部会員 かなり需要はあると思う。

部会長 もう少しPRしたらどうか。

ウッドロードというのは、木材の耐久性の問題もあると思う。今回スギを切るとすると、スギは短時間でダメになるので適さない。ウッドデッキのように板材として使うこととチップとして使う方法などもある。材に適した活用を考慮し、整備の中に反映させてほしい。いろいろと制約はあると思うが、木の要素を生かした活用を事務局には検討してほしい。

他に御用米曲輪の整備内容についてご意見・ご質問は。

部会員 原則論ですが、木は切ったところの近くで活用してほしい。

部会長 今後も工事の進捗状況を見守りつつ、整備のプロセスを見極めながら継続的に検討していきたいと思う。事務局からも情報提供をいただきたい。

部会員 クスノキの根はあのまま長く放置するのはよろしくない。乾燥が心配である。何らかの養生が必要である。

事務局 現状ではシートで保護しているが、具体的な養生の方法をご指導いただき

たい。

部 会 員 シートは仮設であり、できれば土を被せた方がよいが難しい。

部 会 員 二段根については、整備の計画地盤を考えると残せないであろう。だとすると、保護することで根を出そうとする木への負担を増大させるだけである。残せないのであれば、木の発根行為での負担を軽減させるためにも、適切な場所で切って処置するしかない。

部 会 員 指摘したのは二段根ではなく、その下にある根のこと。二段根については、今ご指摘いただいた方法で対処すべきだと思う。先ほど指摘したのは、下にある本当の根のこと。

部 会 長 そこは工事業者と相談し、進捗に合わせて適切な方法を考えてほしい。

では、先に進みたい。議事2「城址公園全体の植栽管理について」ということで、事務局に説明を求める。

事 務 局 資料2「史跡小田原城跡本丸・二の丸内毎木調査表」をご覧ください。

今年度第1回植栽専門部会の時点では御用米曲輪だけの植栽の調査成果を提示した。その後調査を進め、小田原城の本丸・二の丸全体の毎木調査が完了した。本日は曲輪ごとの一覧表と図面を提示させていただいた。この成果を基に傾向や特徴をまとめたので、担当から説明する。

事 務 局 昨年度は御用米曲輪の毎木調査、今年度は城内全体の毎木調査を行った。

この調査結果が資料2になる。ここで調査結果から得られた全体像を説明したい。また、この樹木調査とは別に、低木や草花の調査、植栽の年間管理状況の調査なども行った。その調査結果についても触れたい。

(パワーポイントで説明)

本数・樹種数は表の通りである。これは御用米曲輪の整備着手前、台風による被害を受ける前の数字であるが、本数は1,406本である。本数が顕著に多い樹種はサクラで260本、ウメ170本、マツ150本、クス143本である。この4種で城内の樹木の半数を占めている。サクラは本丸斜面・二の丸の旧小学校の敷地を囲うように密植状態で植えられている。また子供遊園地となっている屏風岩には遊具の周りに満遍なく植えられて木陰を作っているが、強風のときには太い枝が折れる被害も出ている。

全体的に密植状態であるにもかかわらず、剪定などの手入れが行われた経緯はほとんどなく、太い枝も伸び放題である。樹木医に依頼して健康状態を確認しているが、その報告は後ほど観光課からある。ウメは、二の丸銅門広場・歴史見聞館周辺に梅林のような状態で植えられている。樹形も庭木ではなく、実を取るための梅林のような状態となっている。マツは、城内に万遍なく植えられている。本丸では広場と斜面に、馬屋曲輪から南曲輪にかけては、敷地の端を囲うように植えられている。マツクイムシ防除のための処置

は行われているが、高さを止めるための枝下しや枝の混んでいるところを抜くなどの手入れは行われておらず、全体的に伸び放題・茂り放題である。マツについても樹木医に依頼して健康状態を確認している。

クスノキも城内に満遍なく植えられている。緑陰樹や目隠し用の樹木として植えられているようである。

次に、観光客に見せていく花木や紅葉する樹木を抜き出した。本丸・二の丸については樹種数が多いように思われるが、実際には1本から数本しか植えられていないのが現状である。しかも、ほとんどが春に咲く花である。紅葉する樹木は少なく、本丸斜面のイロハモミジ数本以外はほとんどない。

この表は、城内で3本以内しかない樹木を抽出したものである。表の通り。

さらに、エリア別に高木の現状をまとめた。資料2の図をご覧ください。

まず、本丸は、主にサクラ・マツ・クスノキが多い。春のサクラの季節以外は花の見どころはなく、初夏以降は緑陰樹としての役割を果たす。天守閣下・常盤木門内側には小庭園風の植栽がある。本丸法面にはマツ、サクラその他の造園樹木、実生で生えたと思われる樹木があり、花はサクラからツツジ（低木）、アジサイ（低木）と順々に咲く。紅葉樹はモミジが数本植えられているが、図書館前の1本以外は樹形が美しくない。

次に二の丸。城内小学校時代の校庭の樹木として植えられた植栽が多いため、樹種が多様。造園樹木が多い。見た目は小学校時代の植栽がそのまま、お城の敷地内としては不釣り合いな印象を受ける。本丸東堀南側には小庭園風の植栽。銅門広場などにはウメが植栽されており、梅林風の植栽。

次に馬屋曲輪から南曲輪。馬屋曲輪はマツの中にサクラが数本。このエリアでは、花は「御感の藤」・ハス池があり、見ごろの時期は観光客に人気があるが、逆に言えばそれ以外の時期は花も紅葉も見どころが少ない。

屏風岩は、面積に対して比較的樹種が豊富である。特に県道側に自然の林に見られるような植生が少し残っている。遊園地内は、サクラが緑陰樹としてよく茂っているが、子供が遊ぶ場としては、雰囲気的にはやや暗い。

御用米曲輪は、北東土塁上にはクスノキの巨木群があり、見応えがある。土塁外側斜面には落葉樹が生えるが、樹種の多様性は低い。北西土塁上は心地よい緑陰樹の園路となっている。南側法面にはスギが多く植栽される。

以上、高木についての調査報告である。次に、低木と草花の調査結果についても報告する。今回これについての配布資料はないが、資料2を参考にお聞きいただきたい。

まず、低木と生垣について。このように表にすると、樹種が多くあるように見られるが、サツキ・ツツジ・アジサイの三種については管理が追いつか

ないくらいの量がある。中でも二の丸は樹種が多いが、小学校時代に植えられたものが残っているのに加え、歴史見聞館の体裁を整えるために植えられたものが多い。

次に、草花。表では、植えられたものと自生していると思われるものを分けていない。低木・草花についてエリア別に状況をまとめてみた。本丸広場には生垣以外の低木はほとんど植えられていない。南側図書館側・西側遊園地側の法面には主にツツジが植えられている。東側法面にはアジサイが植えられている。ツツジとアジサイの量が多すぎて、初夏の刈込み作業に多くの手間を要する状況である。春のムラサキハナナが目立つが、自生しているウラシマソウ・ホタルブクロ・ヤマユリもある。観光客には見えないが、南側斜面の上部にはシュウメイギクなども多くある。

二の丸のお堀端通りの堀端には自然樹形のツツジがあり、刈り込まれているツツジと比較して見劣りはしない。銅門正面のビヤクシン付近は雑多な印象である。本丸東堀の花ショウブ池は、デザイン・管理両方の意味で観光課が苦勞しており、今後検討の必要がある。元小学校の校庭部分も雑多な印象である。

馬屋曲輪から南曲輪。馬屋曲輪ではドウダンツツジが植えられている。御茶壺曲輪は二の丸の続きでアジサイ・ツツジが多い。

屏風岩も他のエリアと同様にアジサイ・ツツジが多い。草花は遊園地の管理者によりよく管理されているが、デザインに問題がある。県道側は斜面が急で低木・草花はあまり生えていない。

御用米曲輪は北入り口から天守閣まではアジサイ・ツツジが植えられているが、日陰のためか花付きは良くない。斜面下にはアオキがあり、鉄門から二の丸にかけてはウラシマソウの群落がある。

以上が、高木・低木・草花に関する調査報告である。植栽の専門部会員以外の方は植物名だけ挙げられてもわからない部分があると思われるため、少し補足説明をする。

これは、高木・低木・草花を分けずに、ある程度まとまった本数のあるものを中心に季節ごとに咲く花を表したものである。今まで秋に咲く花が少ないと申し上げて来たが、実際に開花期表にしてみても少ないことがわかる。植えられたものではないが、秋には本丸広場で菊花展が行われている。

次は、本数の少ないものまで含めて季節ごとの一覧にしたものである。こうして見ると、秋は種類もボリュームも少ない状況であることがわかる。

次に、外来種について。これだけではないと思うが、目に入ったものだけ報告する。シンジュ・ハナミズキ・ハリエンジュ・ヒマラヤスギ・ユリノキ、低木・草花では、アブチロン・キショウブ・クロバナロウバイ・タカサゴユ

リ・‘ハイドラングア アナベル’。

こちらは逆に、自生する草花について。樹木と違い、管理如何によっては簡単に消えてしまうので、大切にする必要があります。かっこ内は撮影した日付。シャガとウラシマソウは数が多く、城内のあちこちに生えているが、ホタルブクロ・チダケサシ・ウバユリは数が少なく、生えているところも限られている。他にヒガンバナ・ヨメナなどが生えている。

以上、毎木調査及び低木・草花に関しての報告である。

部会長 現況を報告していただいた。何かご意見を。

部会員 なかなかの力作であるが、チダケサシというのはアカショウブである。

全体としては、やはり小田原城内の植生は雑多である。これだけの広さを城址公園全てを管理するのは難しいので、自然に任せる部分としっかり管理する部分をゾーン分けしていかないと、適切に維持するのは難しいのではないかと思う。管理している部分も日本庭園風というのでは寂しい。庭園的な部分と自然に任せる部分を組み合わせしていく必要がある。

もう一つは、秋に見応えがないというのは常緑樹が多すぎるから。クスノキが多すぎる。クスノキ・スダジイはやはり全体的に暗くなる。良い部分もあるが一方で広葉樹が少なすぎるので、その部分を紅葉する落葉樹で補っていったらよいと思う。何にしてもメリハリをつけて管理していく必要がある。いずれにしても全体的な造園計画を作成する必要がある。

部会員 質問だが、草刈の管理はどのようになっているのか。

観光課 現状では、ここ2年間は緊急雇用を活用して行っている。それ以外は、職員が3名、アルバイト数名で対応しており、全ては対応しきれていないのが現状である。イベント等で目立つような時などに順次刈っていくような対応である。

部会員 草刈の高さと時期を考えて、花などとの兼ね合いを考えるべき。市民が参加するような計画も考えたかどうか。

部会長 行政に任せると理想的な形になりにくいというような話をよく聞く。予算的な制約もある中での作業なので、ご意見のようなタイミングでの対応、人手の確保ができない。それから、本来ならば手を入れておきたい部分も、できない。自然に任せるにしてもその条件作りができないのが現状なのではないか。

部会員 横浜などでは市民組織での対応が行われている。今年は自治基本条例が施行され、市民協働・市民の力を活用する傾向にある。城址公園についても市民の手で細やかな管理していくという方法も探っていただきたい。

部会員 城址公園の中の造園というと庭園的な感覚で捉えられる方がおられるが、こういう史跡というのは、在りし日のお城の状態を忍ばせるような風情ある

景観を作る。私は、そういうイメージがある。小庭的な樹木・園芸的な手法の花はいらない。「兵どもが夢の跡」ではないが、地震で崩落した石垣の間から自然に生えてくる、この土地にあった野草、そういうものがある風景を大事にしたい。また、公園的な性格のあるところは、やたらに木を植えるというのではなく管理しやすい形にする。

それから、先ほど説明があったように、必要以上にツツジが植えられていて毎年の管理が大変なようであるが、量の問題もあるが、私は管理の仕方に問題があると思う。ツツジも刈り込みで維持するのではなく、自然樹形で育てることも方法の一つではないか。それにより1株が人の背丈より高く、幅も2メートルにもなる。そうすると、観光客が見たときに、いかにも古いお城の植栽だというように人の目を引くになる。花木の低木だと何でも刈り込む傾向にある。ヤマブキなどは、本来ふわっと育って風情が出るが、刈り込んでしまう。手っ取り早いですが、量が要る。そうすると、植栽景観が堅くなってしまふ。生け垣以外は刈り込みせずに見せることも必要だと思う。

部 会 員 今後、全体の植栽計画を考えていく上で、大変ではあるが、樹高を伴ったデータ、樹冠投影図みたいなものが必要だと思う。

部 会 員 城址公園の植栽の管理というもの行われることにより、図書館前の崩れた石垣のようにかなり見応えが出た場所が増えてきた。先ほども意見があったように、いつの時期にどのように刈り込んだらよいかということをも市民に訴えて、勤労奉仕・ボランティアを募るような呼びかけをすれば協力する市民はかなり出てくる。植栽の知識がある人をリーダーに据えて、市民の力を引き出して全体の管理の一助にする方法も是非検討してほしい。

部 会 長 同感である。ただ小田原城は史跡としての姿があるので任せればよいというだけでもなく、ここはこうしていくのだという、全体の方針を固めることが必要であると思う。全体のマネジメントがあつて市民の協力を得る形にすることはよい。小田原らしいやり方を考えた方がよい。いままではできないにしても、そうしたあるべき方向に向かって進んでいくべきだと思う。

事 務 局 たくさんの貴重なご意見をいただいた。ゾーニングというご意見もいただいた。史跡の中でもそういう考えが必要になってくる。史跡の全体像を考えていく中で、今ようやく城址公園内の植栽の全体像が見え、その植栽があることの効果の分析までができたところだと思う。これを基にして、文化庁などからもアドバイスをいただいているが、必ずしも昔のようにしろということではないが、絵図・明治以降の写真なども見ながら、どういった経過で今の姿になったのかということを中心にきちんと理解し、整備像と合わせて緑の姿を考えていきたい。そこに、市民の皆様の手を添えていくという組み立てを持っていきたい。

また、管理については大きな課題であるが、せつかくステップを1歩ずつ前向きに進んできているところでもあるので、整備をしている我々文化財課と管理する観光課とのあり方も含め、しっかり考えていきたい。

部 会 長 もう一つ議題があるようなので、先に進めたい。

事 務 局 では、サクラの樹木診断、台風15号の被害状況について所管の観光課より報告する。

観 光 課 お手元の資料3をご覧いただきたい。今年6月8日の建設経済常任委員会で史跡外、御濠端通りと三の丸小学校前のサクラの植え替えについて報告した。その基となるのが日本樹木医会神奈川県支部の調査で、D・E判定となったものが多くあり、今回は史跡外のE判定12本のうち4本の植え替えを進めている。8月下旬に抜根まで終え、高さ4.5メートル程のソメイヨシノを、1月に植える予定である。来年度はE判定の残り8本を植え替える予定である。資料の2枚目で、赤で囲っているところが史跡外になる。次のページに、白図に青い点と赤い点を示した図がありますが、学び橋が右やや上にある。そこから、北のほうに赤い点の111番、98番、77番、左下に行って1番、の4本をE判定としていただいている。それから、青い点の8本は来年度ということで予定させていただく。

また、台風15号については、幸いにも史跡外については倒木・大枝落下はほとんどなかった。樹木診断の判定結果などを受け、植え替えなどの対応をしてきた結果であると考え。史跡内については、倒木25本で、そのうちサクラ19本が大きな被害を受けた。その植え替えや方針については本部会で決めていただきたい。

それでは、台風15号の被害状況についてパワーポイントでご説明する。
(以下、パワーポイントで説明)

これが、台風15号の影響により、史跡内で被害を受けた樹木の全体像である。根本からの倒木が19本、赤で示している。それから、倒木相当の主幹から折れたものが6本、緑で示している。それから、幹裂けは梅が2本、枝折れ・幹折れが13本である。また、バッテリーカーの走路脇など、場所から倒木という扱いにせざるを得ない危険な樹木がある。

(以下、個別に写真の説明)

続いて、先ほど見ていただいた郷土文化館前のヒマラヤスギの主幹が1本折れた。ちょうどクスノキの枝に引っかかって、建物への被害はなかった。それから、先ほど見ていただいたように、建屋の基礎の部分を少し痛めているようなところが発見された。今後、検討していただければと思う。

それから、遊園地であるが、271番のソメイヨシノが、階段のところ、樹が傾斜した関係で根元を持ち上げている状態になっている。斜面にあるの

で、今週の金曜日に大枝下しを予定している。

次に、こちらは西斜面、県道側の斜面であるが、ソメイヨシノが倒れている。これも未処理であるが、特殊な状況で、主幹部が2本あり、そのうちの斜面側にあった1本が倒れている状況である。まだ葉が緑で生きている状況ではあるが、ご覧のとおり立っているものも根がだいぶ腐っている状況であり、立地条件も含めると、切らざるを得ない状況だと思う。

それから、先ほど見ていただいた遊園地のマツであるが、これも主幹部分が折れており、処理させていただく。

こちらは北口のシラカシであるが、主幹部分がYの字がひっくり返った状態で引っかかっている。これで、電柱が2本寄ってしまい、樹は翌日処理したが、電柱のほうはまだ修理できていない。

これは、1本しかないバクチノキであるが、これも、まだ元気そうではあるが、上のほうの枝がかなり折れた。

それから、図書館前のハナミズキも元から折れてしまった。

続いて、本丸のオオマツのところのサクラも折れてしまった。この辺もミズキが折れたものが引っかかっている状況である。それから、ここに見えるのが街灯であるが、街灯を折ってしまい、これもまだ処理が済んでいない。

歴史見聞館の裏である。

それから、常盤木門脇の樹も折れてしまった。

二宮神社の周辺もこのような状態であった。

これが、城内高校のグラウンドの前のソメイヨシノである。道路をふさいだが、上の高圧線は切らないで済んだ。これは当日の夜、撤去した。

これは、南斜面のソメイヨシノである。

馬屋曲輪のマツも上の部分がこのような状況で、これも次の日に処理している。

これは、梅林駐車場の、二宮神社の敷地内であると思うが、倒木がかなり出た。これも梅林駐車場の中であるが、3本倒れた。これも梅林駐車場の一番西の林の階段部分のサクラの大枝が折れた。

続いて、現地でも説明した史跡内114番・116番のサクラの枝下しについて。116番はE判定で支柱に寄りかかっていたサクラであるが、サクラが傾いて支柱が折れた。そのため、台風12号接近前に大枝を2箇所下させていただいた。ウロが大きいですが、一応周辺には防腐剤を塗って処理している。また、114番のサクラもE判定であるが、同じく台風12号対策として枝下しを実施した。

以上、サクラ及び台風15号の被害状況について報告した。

部 会 長 いろいろとつげが回ってきている状況のようだ。ご意見のある方はいるか。

部 会 員 御用米曲輪の議論だが、これから城址公園全体の話に移っていくと思うが、部会員共通の認識を作るための勉強会・見学会などを取り入れて話を進めてほしい。

部 会 員 同様のことで、史跡管理について勉強する市民参加というのもあり得る。史跡についての勉強会も考えてほしい。

部 会 員 先ほどの城址公園全体の毎木調査報告、観光課の台風被害の報告などを聞くと、改めて最初の植栽委員会の時の調査報告と一致すると思ひ起こした。現在の城址公園の植栽のあり方というのは、手が付けられないほど雑然とした状態になっている。ではどうすればよいのか。市民参加という意見もあったが、市民に参加してもらう前に、基本的にどういう方向で何をするかという計画ができていないと、市民に何をやってもらうかということも決められない。雑然とした中に市民を入れるということは危険でもある。前提の条件作りが大切だと思う。

では、現在は、そこに至る前に、城址公園の植栽にこれからどのように関わっていったらよいのか、その段取りを考えなくてはいけない。基本は城跡整備であるため、整備の状況に応じて植栽のレイアウトを考えていかなくてはならないというのが大前提である。ただ、整備と言っても一つのエリア、曲輪ごとに整備を進めていくわけであるから、その間に他のエリアの使い方・植栽のあり方をどうするのか、暫定的な使い方・整備について、もう少し本格的な取り組みをして全体イメージしていかないと目安が立たない。本整備の対象となる範囲は一定のデザインが成立するが、未整備区域の例えば本丸斜面の崩れた石垣については、どういう植栽を採用して見せていくかなどは研究していかなくてはならない。なかなか難しい課題だと思う。先ほどの意見にもあったように、今日の都市公園によくありがちなイージーな園芸花壇・庭園仕立てを導入するのは史跡にそぐわない景色になる。荒れた古城の風情を活かした植栽うまくできればよいが、実現には高度なセンスを要する。こういうことにも配慮して計画を立てていく必要がある。未整備段階のエリアの暫定整備をどうしていくかという点を研究していく必要がある。そのためには、現状を概観しても城址景観、公園の美観としても不適切な樹木が少なからずある。遊園地の樹木の中にも子どもが遊ぶ場所としては不適切な危険な樹木がある。こういう樹木を安全な樹木に植え替えていくような対応を積極的に進めていく必要がある。

それから台風被害についても、今後は想定外とは言っていない。きちんと見極めをつけて取り組む必要がある。郷土文化館前のヒマラヤスギは、二宮神社のものもそうであるが、案外弱く、神社のものも同様に折れて被害を受けた。郷土文化館のヒマラヤスギも折れる方向によっては大きな被害を

出す恐れがある。郷土文化館とヒマラヤスギの間は30センチしかなく、明らかに危険な樹木である。また、外来種で城址公園に相応しい樹木とは言えないから、私はより適切な樹木に植え替える必要があると考える。さらに、ヒマラヤスギの下にある天皇皇后両陛下お手植えのマツは醜悪な状態である。ヒマラヤスギの陰にあるため劣悪な環境になっている。あれは小田原城の植栽管理がいかに杜撰であったのかを象徴する姿であろう。このまま放っておくと批判が出てやっかいな問題にならないとも限らない。ヒマラヤスギについてはきちんと処置して、修景を立て直すべきである。

こういう点を一つずつ整理していく必要がある。次回から議論ができればよいと思う。

部 会 員 日本中どこへ行ってもソメイヨシノやツツジの公園で、個人的にはあまりよくないと思う。サクラを補植するならば、いろいろな種類のサクラで並木を造るというのも必要ではないか。サクラの植え替えについても、今年は仕方ないかもしれないが、ソメイヨシノでの補植というだけでなく、きちんと方針を決めて進めてもらいたい。

部 会 員 城址公園全体の計画の項目に入っているが、なかなかテーマが横に逸れている気がする。方向性をきちんと定めて議論していかないとまとまらない。城址公園全体の植栽をどうするかというのは、もっと突っ込んで検討していかなくてはいけないテーマであるが、移り切れていない。

大事なことは、小田原城の天守閣がどういう意味合いを持っているかと言うこともきちんと前提に置いて議論してもらいたい。小田原城は小田原の観光資源の目玉である。次回までに、城址公園の天守閣が樹木のベールに包まれている状態でよいのかどうかは、皆さんにもよく考えてもらいたい。

九州に向かう新幹線の中から小田原城の天守閣が見えたため、わざわざ天守閣を見に小田原を訪れてくれた観光客もいた。天守閣が見えなければそういう動機は生まれない。やはり小田原城がここにあるというポイントを作ってもらいたい。そのためにはどうしたらよいかを皆さんにも考えてもらいたい。また、藤棚の駐車場やガイド協会の事務所まで来て「天守閣はどこですか？」と聞かれるお客がいっぱいいる。目と鼻の先にあるものなのに、それが見えない。せっかくある観光資源を有効に使っていない。もっと、どうしたら観光に役立つかをしっかり考えてもらいたい。

部 会 長 城址公園全体をどうするか、その中で植栽をどうするかということは皆さんの意見をいただきながら考えていかないといけないと思う。ただ、小田原城の樹木が全体に寿命が来ていたり、健康状態が良くない状況にあるものが少なくない。その上で史跡整備もやるということがあり、そこに焦点を当てざるを得ない。それを先行させなければいけないということがあり、そのた

め、なかなか長期ビジョンの方にたどり着けない。次回は十分に時間を取って、対象箇所だけでなく少し将来のことも意見を出し合う形にしたい。事務局にセットしていただくよう要望したい。

副部会長 専門外ではあるが、今日も来る前に前回の議事録全てに目を通してきた。部会長の発言にもあったが、今後限られた時間の中で進めて行くには基本的な方針を決めて、何をやるべきか、その中で個々の問題をやっていかななくてはいけない。

それから、今日も事務局から投げかけられたことがいくつかあった。事務局から提案の出ているものについては、予算や実施の方針を考える上でもきちんと結論を出してあげないといけない。

部 会 員 全体像を考えていかないといけない。今、城跡はどの段階で整備をどのようにやっていくかがわからない。史跡小田原城跡調査・整備委員会の方で城跡をどのように整備していくのかということ、事務局から段階を報告してほしい。その上で我々も全体像を見ながら城跡の植栽をどうしたらよいかを考えていかないといけないのではないか。

部 会 員 時間もないので、第1回でやったように、宿題という形で今後の方針などを次回までにレポートをまとめて提出したらよいのではないか。

部 会 長 部会員がということか。
事務局で検討してほしい。
もう一つ事務局から報告があるようだが。

事 務 局 平成23年5月30日付けで複数の市民団体の連名で小田原城址公園の本丸外側斜面などを中心にマンジュシャゲを補植してはどうかとの要望が出ている。これは、補植することで土砂の流出を防ぐとともに市内でも群生が減ってきているのを守る場として相応しいのではないかということである。この一連の流れの中で、みんなして城址公園の植栽のあり方を考えるということはあることだと思っている。確かに本丸南側法面に高い密度で花を咲かせている所もある。ただ、マンジュシャゲというと、不吉なイメージを抱かれる方もおり、自生しているところとはともかく、全体を補植していくというのは意見が分かれるところではないかと事務局としても躊躇しているところである。植栽管理計画は主に樹木を対象としているため、直接は関わらないとも思うが、城址公園全体の緑を考えていくためには草花についても一定の考えに基づいてやっていかないと市民の皆さんの要望・期待に応えられなくなってしまう。今の議論にもあったが、史跡の全体像を描いていく中で一定の方針の下にこのような要望に応えていくのがよいのではないかと思う。また改めて皆様のご意見をいただきたい。

部 会 長 結論は次回でよろしいか。こういう問題もあり、小田原城に相応しくない

樹木を推薦してきたらどうするかという問題も考え得る。ありがたいけれど、という問題は、しっかりとした姿勢を示さないと決めていけない。そういうことを含め、次回はきちんと議論していく必要がある。もう一度スタートから始められるように、事務局には進行を考えていただきたい。

先ほどご提案があったように、次回までに各部会員にはペーパーを提出していただき、進めていきたい。

- 部 会 員 事務局から提案のあった点については結論を出さないといけない。
- 部 会 長 確認する。御用米曲輪については、マークを付けた木については伐採して工事を進めたいとの話があった。それはよい。むしろ、南斜面のスギについては長期的な整備の姿を考えた時に景観としては、いくつかのものを除いては、全体像として入ってこないであろうから、現場の判断で切ることもあり得る。と、結論を出した。観光課の報告に関しても承認したと考える。
- 観 光 課 倒木はしていないが、残っている危険な樹木については伐採してよいかどうかということ。
- 部 会 長 それは切つてよいということで話が進んでいたと認識している。
- 観 光 課 では、そのように進めさせていただく。
- 部 会 長 危険樹木は早晚切ることになる。今の時点でむしろ割り切つて代替の樹木を用意していく方向で議論を進めたい。それでよろしいか。
- 事務局 長時間の議論に感謝する。事務局として、はっきりこの点について結論を出していただきたいといったことの説明不足があったこととお詫びしたい。
- また、次回、城址公園全体の議論を進めていくための準備を進めたいと考える。次回日程については早急に調整させていただく。